



令和6年の病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課防疫対策室
農産安全管理課農薬対策室

令和7年の病害虫防除シーズンに向けて、令和6年の天候経過、主要病害虫の発生概況、植物防疫事業の概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、令和6年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、表-2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せて参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 令和5年～6年冬（令和5年12月～令和6年2月）の特徴

（1）冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の流れ込みが弱かった。また、2月を中心に南から暖かい空気が流れ込んだ時期があった。このため、気温は全国でかなり高く、降雪量は北日本日本海側でかなり少なく、東・西日本日本海側で少なかった。

（2）降水量は、主に12月に寒気と低気圧の影響を受けやすかった東日本日本海側と、2月に低気圧や前線の影響を受けやすかった西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、低気圧や前線の影響を受けにくかった沖縄・奄美では少なかった。

（3）日照時間は、寒気の流れ込みが弱かったことなどにより、北・東日本日本海側、北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

2 令和6年春（令和6年3月～5月）の特徴

（1）気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、北・西日本と沖縄・奄美でかなり高かった。

（2）降水量は、低気圧や前線などの影響を受けやすかった西日本日本海側、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。西日本太平洋側では、昭和21年の統計開始以降、春として1位の多雨となった。

（3）日照時間は、高気圧に覆われやすかった北日本日本海側と北日本太平洋側で多かった。一方、低気圧や

前線の影響を受けやすかった西日本太平洋側では少なかった。

3 令和6年夏（令和6年6月～8月）の特徴

（1）気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、全国的にかなり高かった。昭和21年の統計開始以降、夏として西日本と沖縄・奄美では1位、東日本では1位タイの高温となった。また、日本の平均気温の基準値からの偏差は+1.76℃で、統計を開始した明治31年以降の夏として、令和5年の記録と並び、1位タイだった。

（2）降水量は、6～7月の梅雨前線や8月の台風第10号などの影響を受けた東日本太平洋側でかなり多かった。

（3）日照時間は、高気圧に覆われやすかった東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多かった。

4 令和6年秋（令和6年9月～10月）の特徴

（1）気温については、9月は暖かい空気に覆われやすく、全国的にかなり高かった。昭和21年の統計開始以降、東日本と西日本では9月として1位、沖縄・奄美では1位タイの高温となった。全国153の气象台等のうち91地点で、月平均気温が9月として歴代1位の高温となった（7地点のタイ記録を含む）。10月は暖かい空気に覆われやすかったため、気温は全国的にかなり高かった。昭和21年の統計開始以降、北日本、東日本と西日本では10月として1位の高温となった。全国153の气象台等のうち139地点で、月平均気温が10月として歴代1位の高温となった（1地点のタイ記録を含む）。また、地球温暖化等の長期的な気候変動の監視に用いる15地点の観測値による日本の月平均気温の基準値からの偏差は+2.21℃で、これまでに最も高かった平成10年の+1.28℃を0.93℃上回り、統計を開始した明治31年以降の10月として1位の高温となった。

（2）降水量については、9月は高気圧に覆われやすかった北・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なかった。10月は台風や湿った空気の影響を受けやすかった沖縄・奄美でかなり多く、低気圧や秋雨前線の影響を受けやすかった東・西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。

Occurrence of Pests and Diseases and their Control in 2024 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：令和6年，病害虫，発生動向，農業，出荷状況）